

審査公報掲載文原稿用紙

受付年月日 年 月 日



最高裁判所判事
深山 卓也
昭和二十九年九月二日生

略歴

東京都生まれ。練馬区立大泉南小学校、大泉第二中学校、都立富士高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。以後、東京地裁、面館地裁、公署等調査委員会事務局に勤務。昭和四十四年四月、判事任官。以後、福岡高裁第2支部、東京地裁、東京高裁の判事として勤務することとなり、法務省民事局判事官、大臣官房判事官、大臣官房審判官、司法法制部長を務める。

二三年一月 東京地裁判事官
二四年九月 法務省民事局長
二七年一月 東京高裁判事官
二八年二月 さいたま地裁所長
二九年三月 東京高裁所長
三〇年一月 最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判

一 平成三〇年二月十九日 大法廷判決
平成三〇年一月二二日施行の衆議院議員選挙法について、小選挙区選出議員の選挙区制は、憲法の投票価値の平等の要求に反する状態にあったとはいえず、公職選挙法の規定が憲法に違反するものではないと認めた（多数意見）。

二 令和二年三月三〇日 第一小法廷判決
タクシー労働者の歩合給の計算に当たり残業手当に相当する額を控除し、その上で残業手当を支払われても、残業手当の額がそのまま歩合給の減額につながり、歩合給の額が〇円となることもあるなどの判決で示す事情の下では、労働基準法三七条の新増賃金が支払われたとはいえない（全員一致、裁判長）。

三 令和二年一月一八日 大法廷判決
令和元年七月二二日施行の参議院議員通常選挙について、選挙区選出議員の議員定数配分規定は、憲法に違反するに至っていないと認めた（多数意見）。

四 令和三年二月二四日 大法廷判決
市長が孔子を祀った施設を所有法人に敷地の使用料全額を免除した行為は、判決で示す事情の下では、市が特定の宗教に対して特別の優遇を提供し、これを援助していると評価されてもやむを得ないもので、憲法二〇条三項に違反する（多数意見）。

五 令和三年五月一七日 第一小法廷判決
労働大臣が石綿含有建材について労働安全衛生法に基づく規制措置を適切に行っていないなどの判決で示す事情の下では、国は、屋内の建設作業に従事し、石綿粉じんばく露して石綿関連疾患に罹患した労働者及び一人親方に対し、損害賠償責任を負う。

六 令和三年六月二三日 大法廷決定
石綿含有建材の製造販売メーカーが石綿粉じんの危険性を建材に表示すべき義務を怠ったなどの判決で示す事情の下では、メーカーは、石綿粉じんばく露して石綿関連疾患に罹患した大工に対し、民法七一九条一項後段の類推適用により損害賠償責任を負う（全員一致、裁判長）。

七 令和三年六月二三日 大法廷決定
夫婦が夫又は妻の氏をいれかえを希望する民法七五〇条及びこれを認める戸籍法七四条一号は、憲法二四条に違反しない（多数意見、補足意見付加）。

裁判官としての心構え

・最終審かつ法律部である最高裁判所に係属する事件は、憲法や法律の解釈を巡り争ひの対立するものばかりですが、当事者の主張を精確するとともに、社会の状況や国民の意識の変化を踏まえて、公正かつ妥当な解決を導くためにどのような解釈によるべきかを探求する姿勢で事件に取り組んでいます。

裁判官 深山 卓也

備考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。